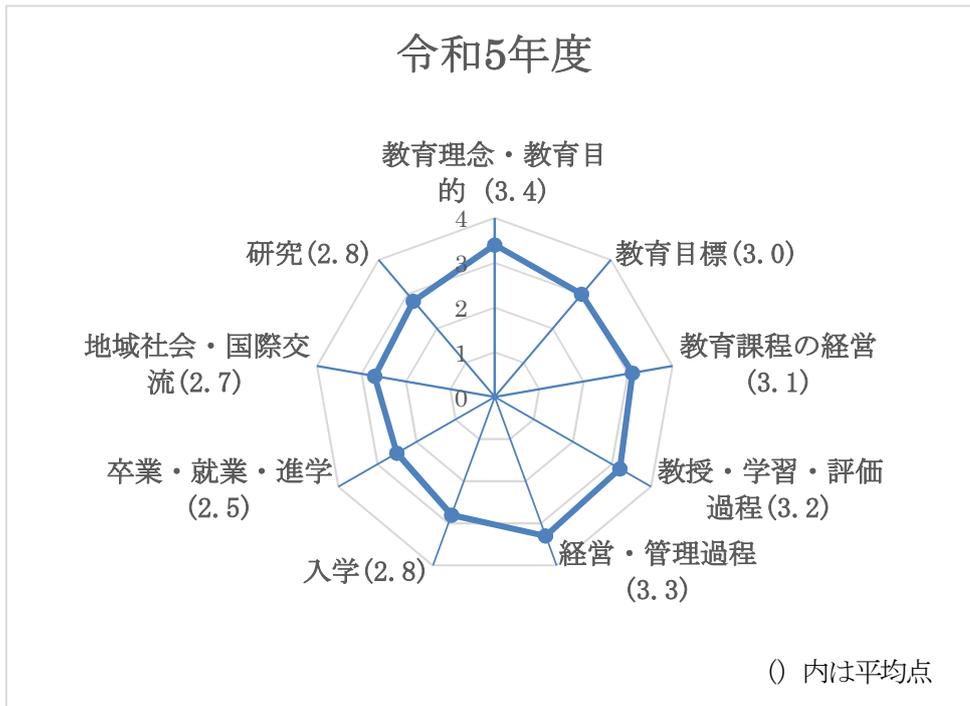


令和5年度 自己点検・自己評価まとめ

和歌山県立なぎ看護学校

【評価方法及び評価点数】

カテゴリーⅠからⅨまでについて、全職員及び学校関係者が評価を実施した。学校の職員は、「とてもそう思う：4点」「そう思う：3点」、「そう思わない：2点」、「全くそう思わない：1点」として該当するそれぞれの項目（計98項目）について評価し平均値を算出した。



【現状及び今後の取組】

- 「Ⅰ. 教育理念・教育目的」、「Ⅱ. 教育目標」、「Ⅲ. 教育課程の経営」、「Ⅳ. 教授・学習・評価過程」については、3点以上であった。今後も学生と教員による評価を継続し、目標を達成できるよう具体的な対策の検討を行っていく。また、実習評価については新カリキュラムへの改正をきっかけにルーブリック評価を取り入れた。評価基準の明確化と教員間での共通理解を図っていく。
- 「Ⅴ. 経営・管理過程」について、教員の負担軽減については主管部局とも十分連携し、人員の確保を図っていく。また、教員確保のために、卒業生等に対し、採用試験等の案内に努める。
- 「Ⅵ. 入学」に関しては、令和元年度から実施している高等学校訪問を、教育学習アドバイザーの同行のもと実施し、当校が望む学生像を伝えるとともに、ホームページや広報誌、オープンキャンパスによる学校紹介を実施した。和歌山県南部の高等学校に加え三重県南部の高等学校との連携を強化し、今後も紀南地域の看護師不足の解消に向け一層の協力を呼びかけていきたい。
- 「Ⅶ. 卒業・就業・進学」においては、平成28年度から令和4年度まで卒業生が減少していたが、令和5年度は38名であった。県内及び実習協力病院への就業率は7割を超えている。学生の背景は多様化していて、学力やモチベーションの個人差は大きいですが、学生への指導は、今後も保護者とも十分連携し、個別性を考慮し支援していく。引き続き実習協力病院と連携し、地域の看護師確保に貢献していきたい。
- 「Ⅷ. 地域社会・国際交流」については、学生自治会による近隣の福祉施設との交流や学校祭を通じて、地域に根付いた学校として存続していきたい。